

今週のメニュー

■トピックス

◇PVC Design Award 2014 作品展示会開催
—東京・大阪・名古屋・福岡会場—

PVC Design Award 事務局

■随想

◇マラウイ共和国旅行記（2）—1種類の魚—

一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

■編集後記

■トピックス

◇PVC Design Award 2014 作品展示会開催
—東京・大阪・名古屋・福岡会場—

PVC Design Award 事務局

去る10月27日の「PVC Design Award 2014」の発表・表彰式に続いて、全国各地で[受賞作品・製品](#)を展示し、多くの方々に作品を見ていただきました。

初めに10月30日から2日間、恒例となっている東京六本木のAXISビル地下1階シンポジアでの展示会を皮切りに、翌週の11月5日に大阪地区でメビック扇町、11月7日に名古屋地区で名古屋駅前の三協化成産業(株)1階、最後に11月27日に九州地区として福岡市のアクロス福岡で開催しました。総勢400名近い方に来場いただき、今年も盛況のうちに展示会を開催することができました。



東京（AXISビル）



大阪（メビック扇町）



展示作品は、受賞作品のみでなく、応募作品をなるべく多く見ていただけるよう製品応募のほぼ全点に近い約75点とデザイン応募作品についてはファイルにして全て閲覧できるよう展示しました。今年は4回目となりましたが、表彰式で大竹審査委員長から、「甲乙付けがたい水準の高い作品が多く、いずれもソフトPVCの世界を広げる新しい試みや用途、美しい表現がされていた」と紹介されましたが、年々レベルが向上し商品化に近いものが

多くなって来たと評価していただける方が多く、来場者も一つ一つ手に取りアイデア、デザインについて吟味されている様子が伺えました。また、デザイン提案のファイルも作品一枚一枚を確認される方も多くいらっしゃいました。受賞したデザイナーの中には、母校の先生を呼ばれ一緒に記念写真を撮る方もおられ、こうした広がりの中から PVC の認知度が高まり更に多くの PVC 製品が生まれることを願っています。



名古屋（三協化成産業）



福岡（アクロス福岡）



もう一つアワードの広がりとして、韓国の塩ビ工業・環境協会 (KOVEC) から韓国でも同様な PVC アワードを実施したく展示会の視察とアワードの実施要領を教えて欲しいとのことから、KOVEC と Mokwon 大学の産学協同委員会の先生方、デザイン関係の先生方6名が AXIS の展示会を2日間とも視察されました。会場ではアワードの目的、進め方、参加団体、審査方法などについてアワード事務局に質問をいただきました。

今年も各地での展示会を通じて多くの方々と触れ合い、あらためて塩ビ素材の可能性が広がったと感じています。この「PVC Design Award」を通じて塩ビ業界が益々元気になり、新しい塩ビ製品がどんどん生まれ広まることを、関係者一同願っています。

■ 随想

◇マラウイ共和国旅行記（2）－1 種類の魚－

一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

国土の 1/4 が水場になっているマラウイ共和国。地図を見ると南北に縦長の内陸国ですが、タンザニアと昨年訪問したモザンビークとの国境に沿うようにこれまた縦長の湖があります。この湖が世界遺産にも認定されている「マラウイ湖」です。

「マラウイ湖」ただの湖ではありません。マグマの影響でアフリカ大陸が左右から押され、その左右の力がぶつかり合い、大地が地下に潜りこんで出来た窪地“アフリカ大地溝帯”に川の水や雨がたまってできた湖です。早い話が内側に折られた大地の窪地に水が溜まった場所ということです。この逆に、左右から大地が押され、押された大地が上に盛り上がったところとして有名なのはエベレストだと言われています。

「マラウイ湖」、実は南アフリカのヨハネスブルグから乗り継いだ飛行機の中から写真撮影をしようと準備をしていたのですが、気が付くとブラントアアのチレカ国際空港に到着していました (^_^;

そう言えば、アフリカにしては珍しい、水を満々とたたえた川が見えたのですが、どうやらあれが“マラウイ湖”だったようです。何のために、飛行機の窓側で、翼の陰にならず、エンジンからの排気熱で地上が揺らいで見にくい位置にならない席を選んだのやら (>_<)

国土に沿うように位置している「マラウイ湖」、長さは 560 キロメートル、幅は最も広い場所では 75 キロメートルに及びます。もちろん、海と接する場所はないので淡水湖です。

「マラウイ湖」には 800 種類以上の様々な魚が生息しています。その魚の種類の大半が“シクリッド”と呼ばれる種類です。

え？ 800 種類以上の魚がいるのに、大半が“シクリッド”？ 日本語としておかしくないですかと思ったあなた、残念でした。

実はこの“シクリッド”、世界で一番環境に適応した魚だと言われています。外観は種類により様々。色や形からその生態ですら異なりどう見ても同じ魚には見えません。しかし、外観というか生態で唯一共通していることがあります。“シクリッド”は口の中で子育てを行うのです。初めはある種類の魚が始めた習性を、子育てには非常に有効なので他の種類の魚もまねをするようになったのだらうと考えた学者もいたそうですが、現在では DNA 検査の結果、全て同じ種類の“シクリッド”であることが確認され、その数 800 種類にも及びます。

“シクリッド”は雑食性で、岩についたコケを食べる種類は下顎が前に突き出し、岩についたコケを剥がしやすいように、川底に沈んだ枯葉や動植物の死体などを食べる種類は下顎が後退し、普通に泳いでいる姿勢でも川床のエサが食べやすいように、水草を食べる種類は噛み千切りしやすいように前歯が発達するなど特に口元に大きな違いがみられます。

外観は他の魚に捕獲されないよう、住む場所に合わせた色をしており、捕獲される場所により非常に多くの色の違いがあります。

このように、雑食性で比較的飼いやすいことと、様々な色や形が楽しめ、同じ種類なので喧嘩や共食いをすることも少ないので、一つの水槽に色々な場所で捕獲された“シクリッド”を入れて鑑賞することができることから、日本でも熱帯魚として人気がある魚だそうです。

日本のペットショップで売られている“シクリッド”は比較的小さなものばかりですが、マラウイ共和国の市場で売られている“シクリッド”は鮎くらいの大きさです。海がないため魚料理としてはよく使われ、貴重な蛋白源となっています。ちなみに、味の方は、パクッ。白身で淡泊な味です。

もちろん「マラウイ湖」にはほかの淡水魚も生息しています。市場に行くと「マラウイ湖」で捕れたテラピアの一種だと思うのですが、比較的大きな魚であるチャンボや、多分ナマズの仲間だと思うのですが、カンパンゴと言う魚も売られていました（現地語の魚の名前は私が聞き取った発音なので、間違っているかもしれません (^_^ゞ)。

「マラウイ湖」の湖畔には日本で言うリゾート地も幾つかありマリンスポーツならぬレイクスポーツが楽しめるようです。

私が滞在していたリロングウェは「マラウイ湖」から少し離れているのですが、時間があればダイビングをして本物の“シクリッド”を見てみたいと思っていたのですが、こちらのドクターに「マラウイ湖は現在、住血吸虫が非常に増えているためダイビングなんてとんでもない」と止められてしまいました(^_^;

(つづく)

次回は、(3) - ブランタイアーです。

⇒ [バックナンバー](#)

■ 編集後記

はやぶさ2が2回の延期の後ようやく打ち上げられました。この打ち上げを待ち望んでいた人は多かったようです。人気が高いのは前回のはやぶさの劇的な帰還成功によるものと思われます。2年前に「はやぶさ 遥かなる帰還」という題名の映画を見ましたが、技術的には失敗に近かったにもかかわらず、わずかな可能性を諦めなかったことが成功へ繋がったものと思います。

はやぶさ2は開発期間が非常に短く、関係者はかなり苦労されたとのこと。戻ってくるのは6年先ですが、無事の帰還を祈るばかりです。(ヨッシー)

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 高橋 満

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL info@vec.gr.jp